鳴門教育大学授業実践研究
－授業改善をめざして－
第21号　2022

地域の教育力を活用した「総合的な探究の時間」の充実・改善

前　田　夏　紀[1)]，藤　井　伊佐子[2)]

（キーワード：総合的な探究の時間，資質・能力の育成，地域との連携・協働，協働的な組織）

1　はじめに

社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」が到来し，さらに，新型コロナウイルス感染症により一層先行き不透明となる中，中央教育審議会（2021）が答申した「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して　～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～」において，「一人一人の児童生徒が，自分のよさや可能性を認識するとともに，あらゆる他者を価値のある存在として尊重し，多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え，豊かな人生を切り拓き，持続可能な社会の創り手となることができるよう，その資質･能力を育成することが求められている。」とある。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善や学校だけでなく地域住民との連携・協働，学校と地域が一体となって生徒の成長を支える学びの提供が求められている。

実習校においても生徒一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し，人生を切り開き，夢（進路目標）を実現できるような資質・能力の育成を目指す。その実現のために，教科指導が中心の教育活動に加えて，地域の教育力を活用し，多様な学びの場を提供する「総合的な探究の時間」を協働しながら充実・改善することを目的として，本実践研究に取り組んだ。

2　実践研究の方法

2．1　実習校における課題の把握

生徒と教員を対象としたアセスメントアンケートを実施し，その結果やグランドデザイン作成検討会の討議内容から，表1のように生徒の課題が明らかになった。

2．2　実践研究の計画

表1から，育てたい生徒像や育てたい生徒像を具現化するための教育活動について話し合い，グランドデザイン（図1）ができ上がった。育てたい生徒像は「夢をかたちにできる生徒」であり，生徒に身につけさせたい資質・能力は「学力」「課題解決力」「社会性」となった。具現化するための教育活動として，地域を題材とした「総合的な探究の時間」が柱の1つとなり，学校全体で取り組むべき課題となった。

表1　実習校の課題

	生　　徒
課題	・自主性，課題解決力，コミュニケーション力，学びに向かう力，社会性，リーダー性の乏しさ ・学習習慣や計画性が弱い ・進路意識の低さ ・目標に対する自分への信頼度の低さ

本実践研究において，育成を目指す資質・能力を次の4つとした。

① 課題発見力
② 課題解決力
③ 協働的に学ぶ力
④ 自己の将来を切り開く

これらの資質・能力を育成するため，次の仮説と手立てにより本実践研究を進めることとした。

仮説

① 地域との関わりを重視した多様な学びの場を提供し，「総合的な探究の時間」の充実・改善を図ることで，4つの資質・能力を育成することができるであろう。
② 様々な人との関わりや協働を通して，課題解決に取り組んだことへの自信や自尊感情が育まれる。そして，地域や社会の一員として自己の在り方生き方について考え，自己の将来を切り開き，夢をかたちにすることができるであろう。
③ 「総合的な探究の時間」の充実・改善に向けた取り組みを通して，協働的な組織体制が構築されるであろう。

手立て

① 多様な学びを提供するための体制づくり
教職員の理解を深め協力体制を確立するための総合的

[1)] 鳴門教育大学大学院　学校づくりマネジメントコース
[2)] 鳴門教育大学　高度学校教育実践専攻（教職系）

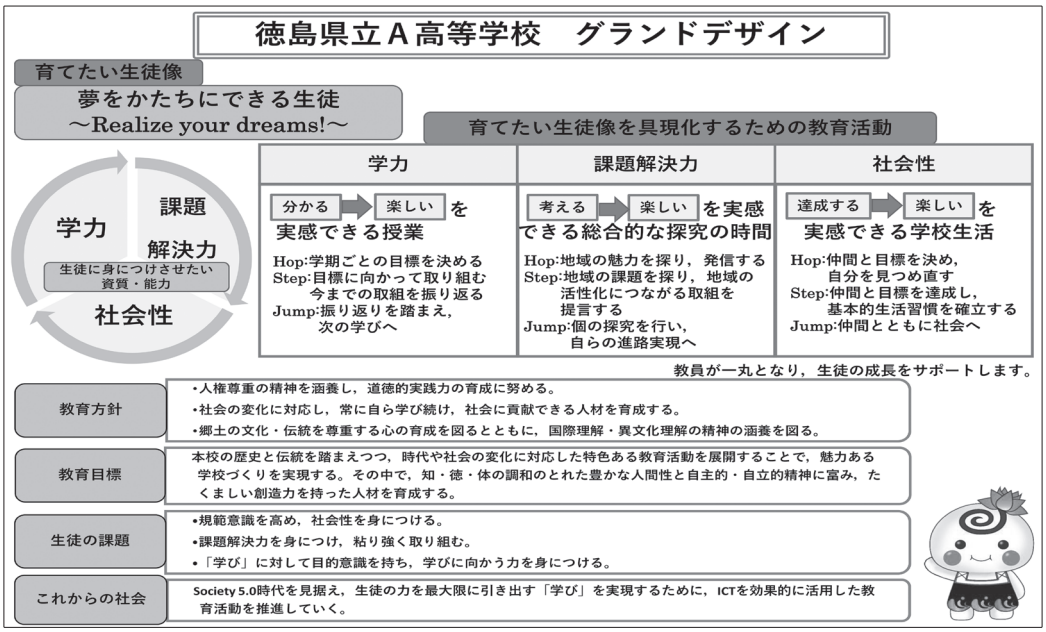


図１　実習校のグランドデザイン

な探究委員会（教員）・担任会の開催や，生徒主体の活動体制につながる総合的な探究委員会（生徒）を設置する。

②　協働による授業づくりの推進

全ての教職員が育てたい資質・能力を共有し，生徒の主体性を引き出しながら，地域資源を活用した授業づくりを行う。統一した指導計画の中で実施し，授業後にリフレクションの機会を設けて協働場面を増やすことで，協働的に学ぶ力を育成し，学習の充実・改善を図る。

③　リフレクションを通し，生徒の変容や成長の可視化

ポートフォリオやルーブリック評価，成果発表会により，生徒が自らの学びを振り返り，課題発見力や課題解決力，自己の将来を切り開く力の成長を視覚的に捉える。

④　計画的・系統的な探究活動の推進

他の教育活動（進路・LHR・教科・行事等）との関連性に目を向け，教科等横断的な学習形態に取り組む。

3　実践研究の実施

3．1　実践研究初期に行ったこと

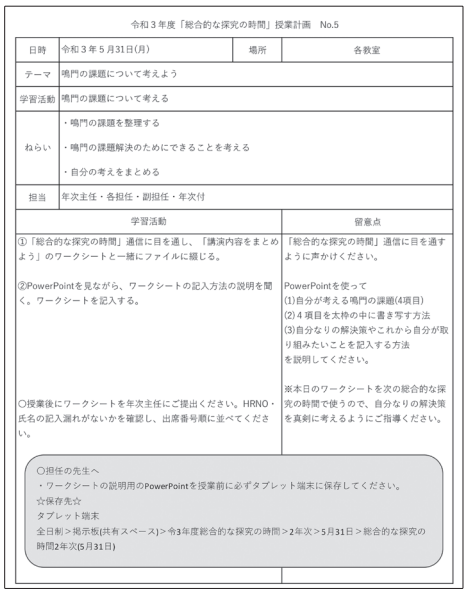
2020 年 10 月から毎週１～２時間，次年度の全体計画・年間指導計画・育てたい資質や能力・教材について協議した。新年度が始まり，「総合的な探究の時間」の授業時間の在り方を検討し，授業内容に関わりのない行事等を実施しない体制づくりや，「総合的な探究の時間」に関わる表２のような組織づくりに取り組んだ。

表２　「総合的な探究の時間」に関わる組織づくり

	令和２年度	令和３年度
総合的な探究委員会（教員）構成メンバー	年次主任・副担任・年次付（企画課員含む）	年次主任・担任３名・副担任（企画推進課員含む）
総合的な探究委員会（生徒）	なし	新しく設置した
「総合的な探究の時間」への関わり	担任	担任・副担任・年次付

年次ごとの総合的な探究委員会で検討した授業・活動の細案を毎週作成し，年次ごとに授業計画を練った。

１学期は毎週，授業計画（図２)･ワークシート（図３)･


令和３年度「総合的な探究の時間」授業計画　No.5

日時	令和３年５月31日(月)	場所	各教室
テーマ	鳴門の課題について考えよう		
学習活動	鳴門の課題について考える		
ねらい	・鳴門の課題を整理する ・鳴門の課題解決のためにできることを考える ・自分の考えをまとめる		
担当	年次主任・各担任・副担任・年次付		
学習活動		留意点	
①「総合的な探究の時間」通信に目を通し、「講演内容をまとめよう」のワークシートと一緒にファイルに綴じる。 ②PowerPointを見ながら、ワークシートの記入方法の説明を聞く。ワークシートを記入する。 ○授業後にワークシートを年次主任にご提出ください。HRNO・氏名の記入漏れがないかを確認し、出席番号順に並べてください。		「総合的な探究の時間」通信に目を通すように声かけください。 PowerPointを使って (1)自分が考える鳴門の課題(4項目) (2)４項目を太枠の中に書き写す方法 (3)自分なりの解決策やこれから自分が取り組みたいことを記入する方法 を説明してください。 ※本日のワークシートを次の総合的な探究の時間で使うので、自分なりの解決策を真剣に考えるようにご指導ください。	

○担任の先生へ
・ワークシートの説明用のPowerPointを授業前に必ずタブレット端末に保存してください。
☆保存先☆
タブレット端末
全日制＞掲示板(共有スペース)＞令3年度総合的な探究の時間＞2年次＞5月31日＞総合的な探究の時間2年次(5月31日)

図２　授業計画

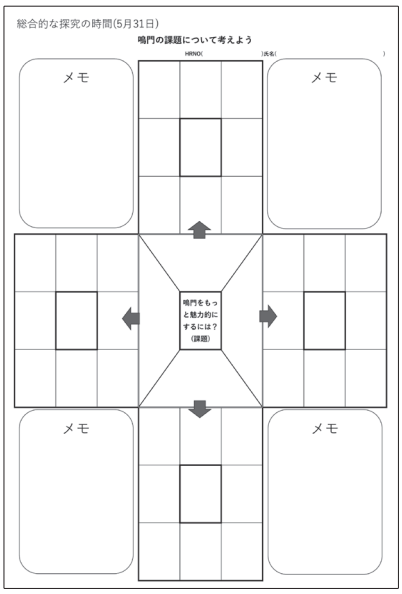


図３　ワークシート

PowerPoint スライド（図 4）を作成し，年次主任のリーダーシップのもと「総合的な探究の時間」を実施した。

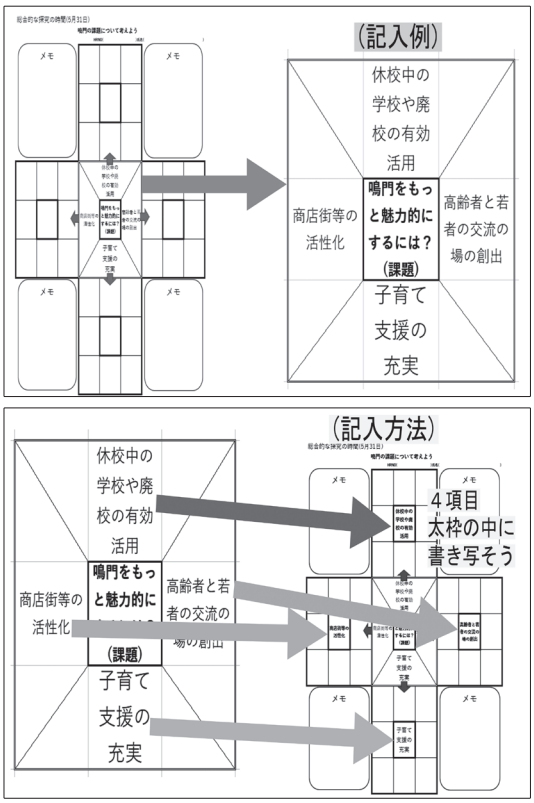


図 4　PowerPoint

3．2　1・2 年次の「総合的な探究の時間」

1 年次は，「地域の人々との関わりを通して，地域の魅力を探り，その魅力を地域の一員として発信していく」という目標で実施した。1 学期は，「あなたが選んだ『鳴門の魅力』について人々に伝えよう！」という目標で取り組み，生徒の思考を促すための働きかけを行いながら，タブレット端末を用いて個人で探究活動を進めることとした。1 学期末にグループ内で，自分が決めた鳴門の魅力について調べたり考えたりした内容を個々に発表を行った。発表に向けて準備をする際に，発表のまとめ方を 2 例（図 5・6）示すことにした。

2 年次は，「郷土鳴門が抱える課題を探り，地域の一員として活性化や町づくりに関わる取り組みについて提言する」という目標で実施した。前年度末に鳴門市教育委員会が提供している生涯学習まちづくり出前講座を申し込み，当時の企画課長と筆者とで鳴門市役所企画総務部戦略企画課を訪問し，今年度から実施する「総合的な探究の時間」の取り組みについて理解と協力を依頼した。4 月 26 日に 2 年次生対象に「鳴門市の抱える課題と市の取り組み」という演題で戦略企画課の方による講演を実施した。鳴門市が抱える大きな課題は，「人口減少」であることや課題解決のための鳴門市の取り組みについて理解を深め，今年度の「総合的な探究の時間」を進めていくための契機となる講演となった。1 学期は，タブレット端末を用いて個人で探究活動を進めることとした。1 学期末にグループ内で，自分が決めた鳴門の課題に対する解決策について調べたり考えたりした内容を個々に発表を行った。

2 学期はホームルームごとに探究分野を決め，グループで課題を設定し，模造紙や MetaMoJi ClassRoom を用いて KJ 法での話し合いを進めた。担任と副担任がグループを分担し，2 つの教室を用いて探究活動を進めたり，担任が独自につくったワークシートを用いたりとホームルームごとに探究活動の形が変わってきた。担任・副担任で創意工夫を凝らし，生徒の実態に応じた探究活動を進めることができた。

1・2 年次ともに設定した探究テーマについての情報を収集するため，鳴門市教育委員会が提供している生涯学習まちづくり出前講座を 26 講座申し込み，鳴門市役所をはじめ様々な関係諸機関の方による講話・講演や生徒との質疑応答を実施することができた。また，年次団全員でなると観光ボランティアガイド会の方と撫養街道を歩き，鳴門の文化や歴史について新たに知ったり，自分の故郷への愛着が深まったりとインターネットでは得られない学びを得ることができた。

表 3 は，生涯学習まちづくり出前講座や地域の方によ

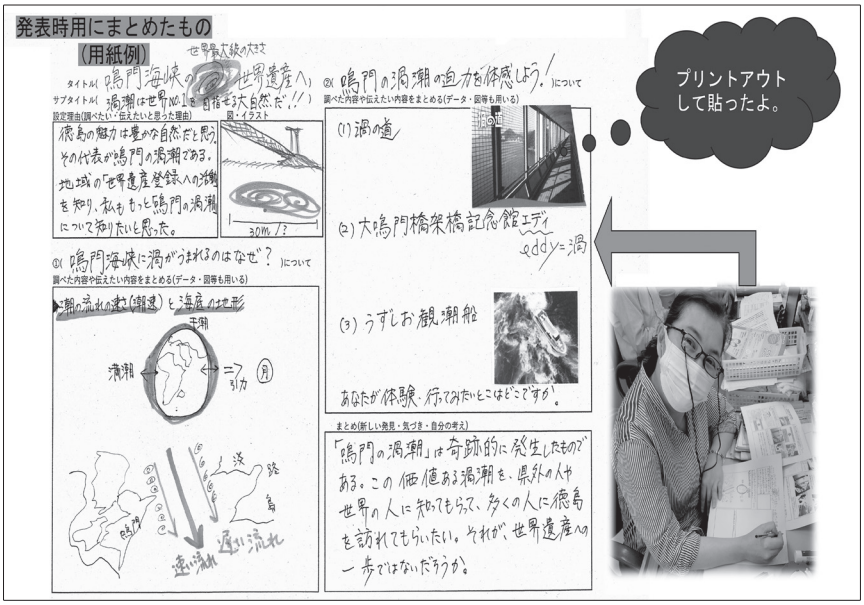


図 5　発表のまとめ方（用紙例）

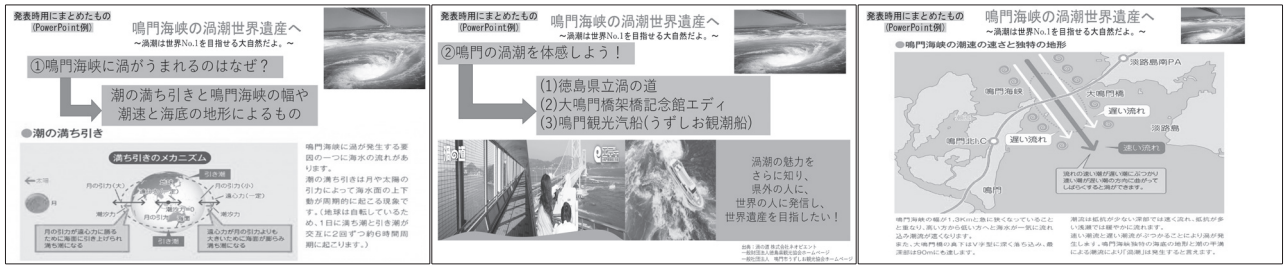


図６　発表のまとめ方（PowerPoint スライドの例）

る講話等を含めた全体の振り返りの平均値である。平均値は，出前講座・講話後にそれぞれの質問項目において生徒が記入した５段階の振り返りを集計した値である。評価段階は，図７のようなものとした。

1　当てはまらない	4　少し当てはまる
2　あまり当てはまらない	5　当てはまる
3　どちらとも言えない	

図７　出前講座・講話の５段階の振り返り

表３の「⑴（　　）について学ぶことができた」という質問項目で，4.69 という高い数値となり，出前講座・講話において多くの講師から，専門性の高い話を聞き，図８のように自分達が知りたかったことや疑問に感じていたことを直に尋ねる機会となった。

表３　出前講座・講話の全体の振り返り

質問項目	平均値
⑴　（　　）について学ぶことができた。	4.69
⑵　今後の教育活動に生かすことができる講座であった。	4.57
⑶　今後の「総合的な探究の時間」に積極的に取り組みたいと思った。	4.54

・文化遺産は現地に行って，自分の目で見ることで新たに知ることがたくさんあるのだなと思いました。文化遺産は，みんなで協力して守っていくべきだと思いました。
・講座を受けて都市化についての具体的な内容を聞き，たくさんの案がある中に課題も多くあるのだと思った。町をこれから支えていくために，一人一人が考えていかなければいけないと気づいた。
・直接都市計画・町づくりについての話を聞いたり，質問をしたりできて細かいことまで知ることができて良かったです。調べてもなかなか分からないこともあったと思うので良い機会だと思いました。
・市を発展させるために「市が」や「市社協が」ではなく『住民が』というワードが一番大切だということが分かった。自分達が中心となって課題解決に向かっていこうと思った。
・私は，自分が住んでいる市の人達がどんなことに困っているのかを知らなかったので，知ることができて良かったです。また，課題解決の手順などを知ることができたので，その方法を基に自分達のグループで話し合っていきたいと思いました。
・地域課題は，行政だけでなく，住民の協力も必要であると感じた。今行われている取り組みの他に自分達ができることや新しい目標を考えてみようと思った。
・質疑応答の回答を聞いて，鳴門市のことをよく知ることができた。疑問に思っていたことなどが解決した。
・細かいデータがあり，知りたいと思ったことがしっかりと分かって助かった。説明が丁寧でとても分かりやすかった。
・鳴門市の現状や今後の課題，そして鳴門市が行っている取り組みについて知ることができて良かった。今日知ったことを今後のグループ活動に生かしていきたいと思った。

図８　出前講座・講話の振り返り

その中でも「鳴門縁（えにし）の会」会長の四宮弘貴氏の講話は，講話の振り返り（表４）の全ての質問項目において高い数値となり，非常に学びの多い講話となった。四宮弘貴氏は鳴門市で生まれ育ち，地元を盛り上げるべく，同級生と「鳴門縁の会」を立ち上げた。30 年続いてきた「どんど焼き」を継承し，地元の商店街で恩返しの意味を込めてイベントを行い，次世代の子ども達に生まれ育った鳴門に誇りを持ち，活躍して欲しいという想いを持ちながら活動されている。図９の振り返りのように，四宮弘貴氏の熱い想いが生徒に伝わり，「総合的な探究の時間」だけでなく今後の生き方にも関わる貴重な学びとなった。

表４　「鳴門縁の会」についての講話の振り返り

質問項目	平均値
⑴　鳴門縁の会の取り組みについて学ぶことができた。	4.91
⑵　今後の教育活動に生かすことができる講座であった。	4.78
⑶　今後の「総合的な探究の時間」に積極的に取り組みたいと思った。	4.81

・鳴門への愛がとても伝わってきてとても熱意を感じた。地元のことをもっと考え，もっと大事にしようと思った。
・今回，四宮さんの講座を聞いて，鳴門縁の会のことを初めて知りました。地元をもっと盛り上げようと行動に起こせることに感動しました。こんなに多くのイベントや行事があることも初めて知りました。自分も積極的に参加して鳴門市をもっとより良いものにしたいです。
・高校の同級生で鳴門縁の会を立ち上げていてすごく素敵だと思いました。いろいろなイベントや行事をしていてすごいと思いました。理念もすごく素敵で，「生まれ育った町に恩返し」ということも忘れずに生活したいと思いました。
・「いつか誰かが」ではなく，「今自分が」という言葉が響きました。私も今できることを考え，行動にうつせる人になりたいです。

図９「鳴門縁の会」についての講話の振り返り

また，鳴門市在住でコウノトリ野生復帰事業特別協力員として活躍されている淺野由美子氏による講話の振り返り（表5）から，「(1)コウノトリについて学ぶことができた」という質問項目において4.94と非常に高い数値が得られた。図10の振り返りのように，実体験に基づいた話は，生徒の深い学びへとつながったようであり，探究活動に大いに生かしていくことができる学びを得たことが窺えた。

表５　コウノトリについての講話の振り返り

質問項目	平均値
(1)　コウノトリについて学ぶことができた。	4.94
(2)　今後の教育活動に生かすことができる講座であった。	4.75
(3)　今後の「総合的な探究の時間」に積極的に取り組みたいと思った。	4.75

・コウノトリについて知る機会は今までなかったので，良い経験になりました。コウノトリにも歴史があって，1971年には一度絶滅していたと知り，驚きました。もう二度と絶滅させないよう，コウノトリが住みやすい町にしていきたいと思いました。
・ネットで調べるよりも詳しくコウノトリやコウノトリを見守っている人達のことを知ることができました。
・コウノトリの詳しい情報を聞かせていただいてとても勉強になりました。
・一度鳴門のコウノトリを見に来たことがありましたが，知らないことをたくさん知ることができてとても良い体験になりました。また観察しに行きたいと思いました。

図10　コウノトリについての講話の振り返り

このように今年度，地域の方々にたくさんの協力を得て，生徒は学校内だけでは行うことができない学びを得ることができた。地域の現状や課題についての理解を深め，2月に予定している成果発表会に向けて，現在も探究活動を進めている。

３．３　「総合的な探究の時間」の組織づくり

３．３．１　総合的な探究委員会（教員）

表2のように組織づくりを行い，総合的な探究委員会（教員）を定期的に実施し，計画(P)・実施(D)・評価(C)・改善(A)の視点で，協働による授業づくりの推進を図った。また，担任会を開催するなど教員間の学び合いの輪ができ始めている。

３．３．２　総合的な探究委員会（生徒）

今年度から新しく設置し，「総合的な探究の時間」に関わる行事の準備・運営等を行い，生徒主体の活動体制の確立を図ることができた。

４　実践研究の総括

４．１　生徒の変容

生徒は，育てたい4つの力に関するルーブリック評価（表6）を4月（オリエンテーション後）・7月（1学期の振り返り）・12月（2学期の振り返り）に記入した。

表7・8は，年次ごとに4月・7月・12月の平均値を比較した表である。全ての項目で平均値の上昇が見られ，多様な学びの場を提供し，地域の教育力を活用した「総合的な探究の時間」を実施することで，育成を目指す資質・能力に高まりが見られた。

2020年と2021年の12月に生徒対象に行ったアンケートにおいて「総合的な探究の時間」を通じて育成を目指す資質・能力に関わる項目の結果の変容を見ると，13質問項目中11項目で肯定的な回答をした生徒の割合が増加した。これは，地域を題材とした探究活動に取り組むことで，育成を目指した課題解決力・協働的に学ぶ力に加えてコミュニケーション力などの資質・能力が少しずつ身についてきている表れであると推察できる。

４．２　教員の変容

教員対象に実施したアンケート結果の変容を見ると，肯定的な回答率が増加した質問項目は，全35項目中27項目であった。特に，肯定的回答率が33％と35％と大幅に増加した質問項目（図11）があり，これは地域を題材とした探究活動のカリキュラムづくりにより，生徒の成長や社会に出て必要となる資質・能力の育成につながっていると教員が実感している表れであろう。

本実践研究を通して，教員の意識の変容につながり，「総合的な探究の時間」に関わる教育活動以外においても改善が見られた。

表６　育てたい４つの力に関するルーブリック評価

	レベル１	レベル２	レベル３	レベル４
A 課題発見力	身につけた知識を生かして，身近なことに対して「不思議だな？」「どうしてだろう？」と思うことがある。	身につけた知識を生かして，身近なことに対して「不思議だな？」「どうしてだろう？」と疑問を持ち，「調べてみたい」と思うことがある。	身につけた知識を生かして，身近なことに対して「不思議だな？」「どうしてだろう？」と疑問を持ち，「調べてみたい」と思い，その内容に関わる情報を集めることができる。	身につけた知識を生かして，身近なことに対して「不思議だな？」「どうしてだろう？」と疑問を持ち，「調べてみたい」と思い，その内容に関わる情報を集めて，新たな疑問を持つことができる。
B 課題解決力	課題を設定し，その課題を解決するために情報を収集することができる。	課題を設定し，その課題を解決するために情報を収集し，整理・分析することができる。	課題を設定し，その課題を解決するために情報を収集し，整理・分析して解決策を見出すことができる。	課題を設定し，その課題を解決するために情報を収集し，整理・分析して解決策を見出し，まとめて表現することができる。
C 協働的に学ぶ力	課題の解決のために協力して取り組むことができる。	課題の解決のために協力して取り組み，他者の考えを尊重することができる。	課題の解決のために協力して取り組み，他者の考えを尊重し，協働して取り組むことができる。	課題の解決のために協力して取り組み，他者の考えを尊重し，自他の役割を明確にしながら，主体的かつ協働的に取り組むことができる。
D 自己の将来を切り開く力	自らの進路について考えている。	自らの進路について考え，情報を集めている。	自らの進路について考えて情報を集め，自己の将来を切り開くための課題を理解している。	自らの進路について考えて情報を集め，自己の将来を切り開くための課題を理解し，粘り強く努力をしている。

表７　ルーブリック評価の比較（1 年次）

育成を目指す資質・能力	平均値（4 月）	平均値（7 月）	平均値（12 月）
課題発見力	1.65	2.28	2.35
課題解決力	1.18	1.99	2.2
協働的に学ぶ力	1.98	2.2	2.53
自己の将来を切り開く力	1.61	2.08	2.23

表８　ルーブリック評価の比較（2 年次）

育成を目指す資質・能力	平均値（4 月）	平均値（7 月）	平均値（12 月）
課題発見力	1.81	2.23	2.74
課題解決力	1.4	2.17	2.6
協働的に学ぶ力	2.01	2.18	2.84
自己の将来を切り開く力	1.65	2.13	2.68

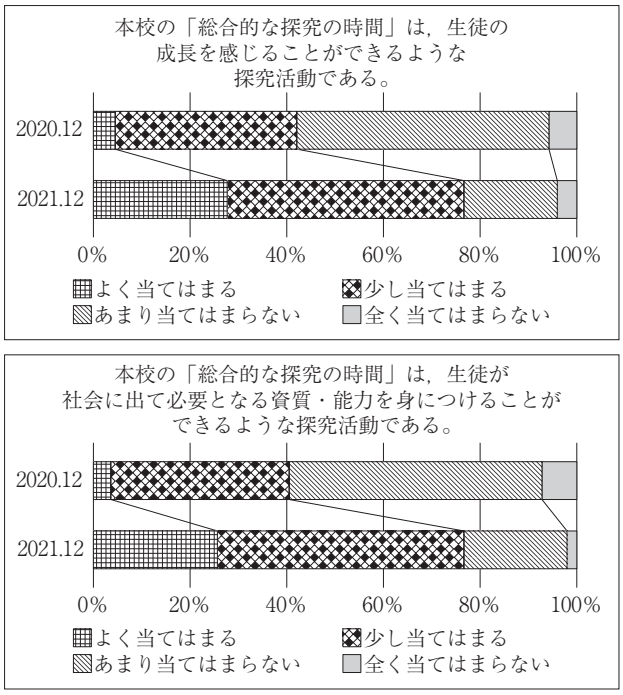


図 11　2020・2021 年のアンケート結果の比較

5　おわりに

本実践研究での取り組みは，生徒の資質・能力の育成につながり，教員にも前向きな変容が見られ，地域の教育力を活用した「総合的な探究の時間」の充実・改善を図ることができた。その反面，課題も多くあり，情報を共有し，実習校の教員と次年度の計画を検討していく必要がある。今後も地域の教育力を活用した「総合的な探究の時間」を通じて，多様な学びを提供し，夢をかたちにできる資質・能力の育成に向けて，さらに協働的な組織体制を確立し取り組んでいく。

文　献

文部科学省（2019）『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　総合的な探究の時間編』学校図書

文部科学省（2021）「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）中央教育審議会
https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf（2022 年 2 月 3 日最終閲覧）